

大郷町教育委員会事務事業 点検・評価報告書

(令和6年度事業)

令和8年3月

大郷町教育委員会

.....

～ は じ め に ～

教育委員会制度は、首長からの独立、合議制、レイマンコントロール*により、政治的中立性、継続性・安定性の確保、地域住民の意向の反映を図るものとして、戦後わが国に導入され、地方教育行政の基本的な制度として定着しています。

また、地方分権の進展や教育に関するニーズの高まり、教育委員会の担任業務の多様性や専門性などから制度創設時から現在に至るまで、随時、制度改正を重ねてきました。

このような中、平成 18 年 12 月の教育基本法の改正及び平成 19 年 3 月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成 20 年 4 月から施行されました。

この改正法の大きな柱の一つであります「教育委員会の責任体制の明確化」の方策として、効果的な教育行政に資するとともに住民への説明責任を果たすため、教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うことが義務付けられました。

本町教育委員会においては、毎月、教育委員会定例会を開催し、教育行政に係る基本方針や計画策定などの重要事項について審議するとともに、教育施策に関する研修、教育施設への視察など、事務局と連携しながら積極的な活動を通じて教育行政の推進に努めてきました。

新型コロナウイルス感染症は、令和 2 年度から様々な感染防止対策が講じられ、令和 5 年 5 月 8 日から感染症法上の 5 類に移行されました。これまで中止してきた事業は行動制限がなくなり、コロナ禍以前に戻り実施されました。

本報告書は、今後のさらなる効果的な教育行政の推進に資するために、学識経験者のご意見等を踏まえ、令和 5 年度の教育委員会の活動状況や教育委員会が実施した施策全般について、点検・評価を行った結果であります。ご高覧のうえ、ご指導を賜りますようお願いいたします。

令和 8 年 3 月

大郷町教育委員会

.....

※「レイマンコントロール」は、専門家だけの判断に偏ることなく、住民のニーズを適切に施策に反映させる仕組みである。

大郷町教育委員会事務事業 点検・評価報告書
(令和6年度事業)

目 次

I	点検・評価の概要	1
1	点検・評価の趣旨	1
2	点検・評価の対象及び方法	1
3	学識経験者の知見の活用	1
II	大郷町教育振興基本計画（抜粋）	2
1	大郷町教育基本理念	2
2	大郷町教育基本方針	2
3	計画体系図	3
III	令和5年度大郷町教育基本方針（教育重点施策）	4
IV	教育委員会の活動状況	6
V	教育重点施策等の点検・評価	8
1	学ぶ力と自立する力の育成	8
	重点施策1 幼児教育の推進	8
	重点施策2 基礎・基本を重視した確かな学力の定着	8
	重点施策3 小・中一貫教育の推進	11
	重点施策4 きめ細かな特別支援教育の充実	13
2	国際性を備えた豊かな心と健やかな体の育成	16
	重点施策1 国際理解教育、外国語教育の充実	16
	重点施策2 健康でたくましい子どもの育成	17
	重点施策3 「ふるさと教育」の推進	19
	重点施策4 夢や志を持った児童生徒の育成	19
	重点施策5 安心して安全な学校給食の提供	21
3	安心安全で信頼され魅力ある教育環境の整備	22
	重点施策1 安心安全で開かれた学校づくりの推進	22
	重点施策2 教育相談体制の推進	23
	重点施策3 時代のニーズに即応した教育環境の整備	26
	重点施策4 上級学校進学への支援	27
4	学校・家庭・地域が連携することによる協働教育の推進	28
	重点施策1 地域全体で子どもを育てる環境づくり	28
	重点施策2 協働教育推進事業の展開	29
	重点施策3 放課後子ども教室事業の推進	30
5	生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進	30
	重点施策1 社会教育・生涯学習事業の推進	30
	重点施策2 青少年の健全育成の推進	32
	重点施策3 ライフステージを踏まえた公民館事業の展開	33
	重点施策4 地域文化・芸術の振興	34
	重点施策5 文化財の理解と保存・継承	34
	重点施策6 生涯健康・生涯スポーツの推進	35
VI	点検・評価に対する学識経験者の意見	37

I 点検・評価の概要

1 点検・評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価を実施する。

2 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象事業は、令和 6 年度教育基本方針に基づく重点施策や具体的な事業等を対象とし、主な取り組み状況について教育委員会内で点検・評価を実施した。その後、教育委員会内での点検・評価内容について、学識経験者の知見を活用してご意見等をいただき、その結果を取りまとめた報告書を議会に提出するとともに、町民に公表する。

3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の実施にあたっては、学識経験を有する方に依頼し、点検・評価の内容についての意見を伺った。

氏 名	役 職 等
高 橋 浩	石原行政区副区長 元粕川小学校 P T A 会長

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 大郷町教育振興基本計画（抜粋）

1 大郷町教育基本理念

まちづくりは人づくり、人づくりは教育

～心豊かでたくましく生きる人間の育成を目指して～

大郷町のまちづくりの基本理念は、『「自力」一人ひとりが考え、行動し、未来を創るまちづくり』と定められています。

そのためには、町民と町の協働によって、大郷町の良さを共有しながら一人ひとりが創意工夫してまちづくりを考え、一人ひとりがまちづくりのために積極的に行動し、一人ひとりが魅力ある未来のまちづくりを創造していく必要があります。

その礎は、「まちづくりは人づくり、人づくりは教育」であり、故郷の心を誇りにして、新しい時代を拓く『心豊かでたくましく生きる人間の育成』を一層充実させるため、学校や家庭、地域社会が協働しながら教育を推進します。

2 大郷町教育基本方針

教育のさらなる充実で心豊かなまちづくりを目指して、次の5つを本計画の基本方針として取り組んでいきます。

基本方針1 学ぶ力と自立する力の育成

基本方針2 国際性を備えた豊かな心と健やかな体の育成

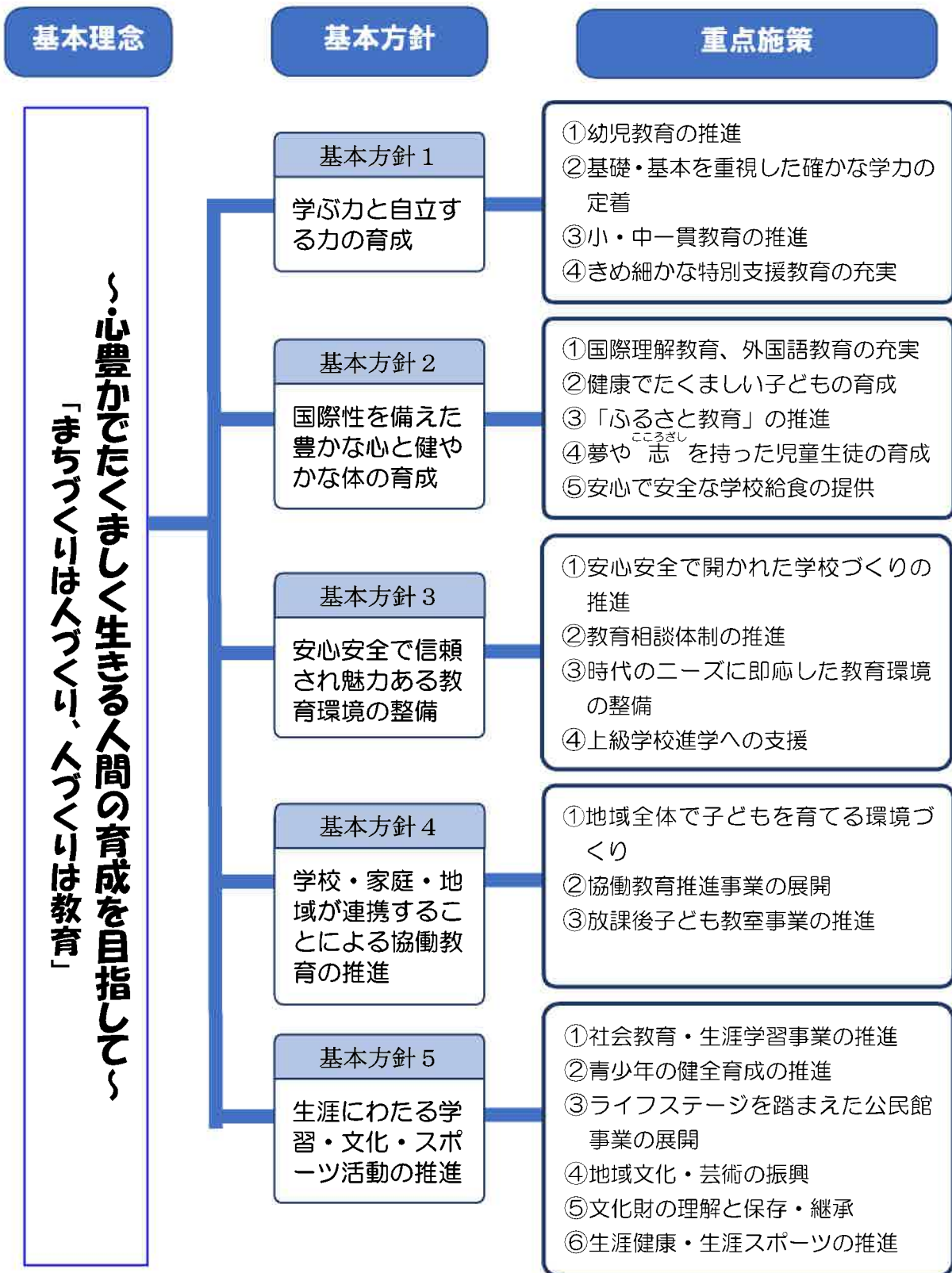
基本方針3 安心安全で信頼され魅力ある教育環境の整備

基本方針4 学校・家庭・地域が連携することによる協働教育の推進

基本方針5 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

3 計画体系図

本計画では、「教育基本理念」と5つの「基本方針」のもと、その実現に向けて、次の22項目の「重点施策」を実施していきます。



III 令和6年度大郷町教育基本方針

教育振興基本計画で謳っている「大郷町教育基本方針」を「令和6年度教育基本方針」とする。

そして、この令和6年度教育基本方針に基づき、当該年度の重点施策を、以下のとおり定め、教育に関する諸施策を推進する。

教育のさらなる充実で心豊かなまちづくりを目指し、

- 学ぶ力と自立する力の育成
- 国際性を備えた豊かな心と健やかな体の育成
- 安心安全で信頼され魅力ある教育環境の整備
- 学校・家庭・地域が連携することによる協働教育の推進
- 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

を重点に、学校・家庭・地域協働のもと、生涯にわたる教育の充実に努める。

令和6年度大郷町教育重点施策

I 学ぶ力と自立する力の育成

1 幼児教育の推進

(1) 認定こども園と小学校との連携強化

2 基礎・基本を重視した確かな学力の定着

(1) 個の能力に応じた指導の工夫と実践

(2) 時代の要請に応じた教育の推進

(3) 分かる授業づくりの推進

3 小・中一貫教育の推進

(1) 小・中学校の円滑な接続を図る教育課程の編成

(2) 子ども・教員の校種間交流の推進

(3) 子どもの居場所の確かな保証

4 きめ細かな特別支援教育の充実

(1) 個々の指導計画の立案と実践

(2) 教員補助者の適正配置

(3) 関係機関との連携強化

II 国際性を備えた豊かな心と健やかな体の育成

1 国際理解教育、外国語教育の充実

(1) 国際理解教育、外国語教育の充実強化

(2) 外国語指導助手（ALT）の活用

2 健康でたくましい子どもの育成

- (1) 指導計画に基づく体力づくりの推進
- (2) 食育指導の充実
- (3) 環境教育の充実

3 「ふるさと教育」の推進

- (1) 社会科副読本「私たちの大郷町」の活用

4 夢や志を持った児童生徒の育成

- (1) 志教育の推進と支援体制の整備
- (2) 家庭の教育力の向上

5 安心で安全な学校給食の提供

- (1) 食育の推進と関係機関との連携
- (2) 学校給食施設・設備の整備・充実

Ⅲ 安心安全で信頼され魅力ある教育環境の整備

1 安心安全で開かれた学校づくりの推進

- (1) 学校評議員の活用及び学校評価等の公開による開かれた学校づくりの推進

2 教育相談体制の推進

- (1) 校内指導体制の充実
- (2) 心のケアハウス事業の推進
- (3) 関係機関との連携強化

3 時代のニーズに即応した教育環境の整備

- (1) ICT教育の環境整備と充実
- (2) 家庭・地域と連携し、安全なスクールバス運行

4 上級学校進学に係る支援

- (1) 奨学資金貸与制度を奨励し、上級学校へ進学する機会の拡充
- (2) 住民バス運行等による公共交通機関への接続確保

Ⅳ 学校・家庭・地域が連携することによる協働教育の推進

1 地域全体で子どもを育てる環境づくり

- (1) ボランティアによる登下校指導
- (2) 関係団体との連携強化
- (3) 子どもたちの体験活動の充実

2 協働教育事業の推進

- (1) 魅力ある教育活動を推進する人材の確保・活用

3 放課後子ども教室事業の推進

- (1) 学習活動の推進
- (2) 体験学習の充実

Ⅴ 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

1 社会教育・生涯学習事業の推進

- (1) 生涯学習情報の発信、学習機会の提供及び支援
- (2) 社会教育団体の支援及び社会教育指導者の育成
- (3) 社会教育施設の改修・整備

2 青少年の健全育成の推進

- (1) 青少年健全育成の啓発活動への支援・協力
- (2) ふれあい交流事業等、各種体験活動への参加促進

3 ライフステージを踏まえた公民館事業の展開

- (1) 各種団体、地域コミュニティ組織活動への協力
- (2) 地域に根差した分館活動の活性化支援

4 地域文化・芸術の振興

- (1) 文化・芸術を身近に触れる機会の提供
- (2) 文化団体の育成と連携強化

5 文化財への理解と保存・継承

- (1) 文化財の保存・管理体制の充実
- (2) 郷土芸能の伝承と活動支援

6 生涯健康・生涯スポーツの推進

- (1) 生涯スポーツ推進体制の整備
- (2) 各種スポーツ大会・教室の実施
- (3) スポーツ施設の改修・整備

IV 教育委員会の活動状況

教育委員会では、毎年度、教育基本方針と重点施策を定め、これを基に各種の事業を展開している。

教育委員会においては、毎月1回の教育委員会定例会に加え、必要に応じて臨時会を開催した。

さらに、会議のみならず、現場の意見に基づいた議論を行うために、式典等の行事への参加はもとより、学校訪問や視察、定例会終了後に意見交換を積極的に行うなど、活発な活動を通じて教育行政の推進に努めてきた。

令和5年度における教育委員会の主な活動状況については、次のとおりである。

1 教育委員（令和6年度在籍者）

職名	氏名	任期
教育長	鳥海義弘	令和2年1月17日～令和7年9月6日
教育長職務代理者	武藤光広	平成23年8月17日～令和8年9月30日
委員	高橋幸也	平成23年8月17日～令和7年11月30日
委員	高橋賢之	平成29年6月25日～令和10年6月24日
委員	及川明美	令和元年10月1日～令和9年9月30日

2 教育委員会活動

項目	回数	活動内容
会議の開催	13回	定例会及び臨時会の開催 定例会12回、臨時会1回
会議の傍聴者の状況	0人	傍聴者なし
議事録の公開、広報・公聴活動の状況	0件	会議録の開示請求0件
研修会等への参加状況	4回	黒川郡町村教育委員会研修会 6/29 管内市町村教育委員会研修会 2/5 縣市町村教育委員・教育長研修会 1/21 県町村教育長会教育委員・教育長研修会 11/26 東北六縣市町村教育委員・教育長研修会等 7/11～7/12
学校等所管施設訪問	1回	小中学校、給食センター、ケアハウス 11/28

会議の開催状況

区 分	期 日	主 な 付 議 事 件
定例会	令和6年 4月 26日	<ul style="list-style-type: none"> ・人事案件（職員人事、社会教育・体育施設「施設管理人」） ・令和6年度準要保護児童生徒就学援助費受給者の認定
定例会	令和6年 5月 23日	<ul style="list-style-type: none"> ・人事案件（社会教育・体育施設「施設管理人」、学校給食センター運営委員、ICT教育推進委員会委員） ・令和5年度準要保護児童生徒就学援助費受給者の認定
定例会	令和6年 6月 25日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度一般会計補正予算（第2号）教育委員会関係予算 ・人事案件（いじめ問題対策専門委員会委員、特別支援教育連絡協議会委員）
臨時会	令和6年 7月 2日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度使用教科用図書の採択計画書
定例会	令和6年 7月 25日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度使用教科用図書の採択計画書（追加） ・令和7年度使用教科用図書の採択 ・人事案件（外国語指導助手）
定例会	令和6年 8月 26日	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の一部改正
定例会	令和6年 9月 25日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度一般会計補正予算（第5号）教育委員会関係予算・人事案件（歴史民俗資料館設立準備委員会委員）
定例会	令和6年 10月 25日	<ul style="list-style-type: none"> ・人事案件（教育支援審議会委員）
定例会	令和6年 11月 28日	<ul style="list-style-type: none"> ・人事案件（特別支援教育連絡協議会委員）
定例会	令和6年 12月 20日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度一般会計補正予算（第8号）教育委員会関係予算 ・財産の取得
定例会	令和7年 1月 27日	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会事務事業点検・評価報告 ・教育振興基本計画の策定
定例会	令和7年 2月 13日	<ul style="list-style-type: none"> ・人事案件（小・中学校の学校薬剤師） ・招致外国青年任用規則の一部改正 ・児童生徒就学援助費支給要綱の一部改正 ・令和7年度教育基本方針及び教育重点施策 ・県費負担教職員の任免等の内申
定例会	令和7年 3月 28日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度一般会計補正予算（第11号）教育委員会関係予算 ・令和7年度一般会計予算教育委員会関係予算 ・人事関係（指導主事、ケアハウススーパーバイザー・コーディネーター、教員補助者、スクールソーシャルワーカー、学校評議員、公民館分館長、学校施設の開放に伴う管理員） ・招致外国青年任用規則の一部改正 ・児童生徒スポーツ及び文化芸術等表彰規則の一部改正 ・学校教員補助者配置要綱の一部改正 ・公民館の管理運営に関する規則の一部改正 ・令和7年度準要保護児童生徒就学援助費受給者の認定 ・コミュニティセンターの管理運営規則の一部改正 ・運動公園の管理運営に関する規則の一部改正

V 教育重点施策等の点検・評価

1 学ぶ力と自立する力の育成

重点施策1. 幼児教育の推進

施策1 認定こども園と小学校との連携強化

大郷小学校
令和6年度実施状況
<ul style="list-style-type: none">・学校だよりを発行し、小学校行事や児童の様子を周知した。・異校種交流研修を教員2名が、こども園で行った。園児の様子を参観し、保育士と情報共有することができた。
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・5歳児担当保育士と1年担任教員が引継ぎを行い、該当児童への配慮や、留意事項を情報共有することで、入学へ向けて準備を行うことができた。・入学が義務教育スタートの大事な時期であるため、共通認識を持って保育や指導に当たれるよう、こども園と小学校で合同研修会の設定を検討していきたい。・異校種交流研修で得た情報をスタートカリキュラムに反映できるようにしていきたい。

学校教育課
令和6年度実施状況
<ul style="list-style-type: none">・園長・校長会議を毎月開催。小学校との連携のほか、中学校、ケアハウス、給食センターとも情報交換し連携を行った。・特別支援教育連携協議会を開催し、就学対象児童の情報共有を図った。
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・園長・校長会議の定期的な情報交換を通じて連携を深められた。・次年度の就学に向け、情報共有ができた。

重点施策2. 基礎・基本を重視した確かな学力の定着

施策1 個の能力に応じた指導の工夫と実践

大郷小学校
令和6年度実施状況
<ul style="list-style-type: none">・タブレットドリルを活用し、個々に合った問題練習に取り組みせ、「できた」「わかった」という実感がもてるような指導を行った。・通級教室（きらぼし・ことばの教室）は、指導計画に基づき指導を行った。学習の様子を、学級担任が保護者と共通理解を図り、児童の頑張りや成長を認め、励ます声掛けを行い、児童の意欲や自己肯定感の向上に努めた。・外国籍の児童が安心して学習に取り組むため、日本語指導教員が取り出し指導や入り込み指導を行い、児童の実態に応じた個別指導を行った。
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・タブレットを活用し、多くの問題練習に取り組むことができた。児童の考えを共有し、発表の際に活用することで、多様な考えに触れる機会となっている。・通級教室は、児童の実態に応じた指導を行い、1人ひとりの成長を認め、励ます声掛けを行い、児童の自己肯定感を向上させ、意欲を持って活動する姿が見られた。・外国籍の児童が、学級の友達と意欲的に学習に取り組む姿が見られた。日本語指導教員が家庭への連絡を行い、学校生活がスムーズに送れている。生活経験や日本語の理解は、個人差が見られ、適切な実態把握と保護者への対応が必要である。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・各教科の授業において、基礎的な内容を確認する学習プリントを用いて反復学習を行った。
- ・廊下に、理科や英語科の自習用プリントを準備した。休み時間や家庭学習に取り組むよう声掛けし、基礎・基本の習得ができるよう環境を整備した。
- ・外国籍の生徒に対して、日本語や日常生活に必要な知識技能の習得のために必要な授業を設定し、個別指導を行った。

成果と課題、今後の取組

- ・反復学習を継続し、漢字の読み書きの基礎学力が身に付いた。
- ・自習用プリントに進んで取り組む生徒が増え、主体的に学習に取り組む生徒が見られるようになった。
- ・外国籍の生徒は、日本語の習得状況に一人ひとり差があるため、個別の指導が必要であり、日本語指導の非常勤講師を増やす必要がある。

施策2 時代の要請に応じた教育の推進

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・プログラミング教育として、ドローンの操作方法を知り、実際に動かす体験出前授業を行った。
- ・タブレット端末やロイロノートの活用の仕方について、ICT推進リーダーを中心に研修を行った。

成果と課題、今後の取組

- ・ドローン操作は、コースを設定したり、本体を正確に動かす方法を試行錯誤しながら、プログラミングの仕組みを理解することができた。
- ・ロイロノートは、児童の意見や考えを共有でき、発表を記録することで、お互いの考えを知ることや教師の評価への活用を図ってきた。
- ・保護者からの欠席連絡は、ロイロノートを活用し行ったことで、業前の電話対応が減った。児童の心の健康観察は、担任の児童対応の一助となっている。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・タブレット端末とグーグルフォームを用いて、学習や学校生活についてのアンケートを行い、生徒の実態把握に努めたことで、授業改善や生徒指導に生かした。
- ・各教科の授業でタブレット端末を活用し、生徒一人ひとりの考えを集約し全体で共有する場を意図的に設定したことで、GIGAスクール構想の推進に努めた。

成果と課題、今後の取組

- ・グーグルフォームやスプレッドシートの活用によりアンケート集計を効率化でき、教員の働き方改革につなげることができた。生徒一人ひとりの実態をより細かく把握することができるようになった。
- ・ロイロノートやグーグルクラスルームを使い、生徒一人ひとりの考えが把握しやすくなった。タブレット端末を使うことで、生徒が自分の考えをまとめることへの抵抗感を軽減でき、積極的に発表できるようになった。

施策3 分かる授業づくりの推進

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・校内研究は、全職員が研究授業を実施し参観する機会を確保した。事前事後の検討会を通して、授業改善に対する意欲を高め、共通の手立てや取組の必要性について全体で確認した。
- ・協働の授業づくりに取り組み、学年部で指導の系統性や視点について共通理解を図りながら授業実践を行い算数の学力向上を目指した授業改善に取り組んだ。
- ・学習の約束や構造的な板書計画、ノートづくりは、学力向上に向けて研究推進部が中心となって企画立案するよう努めた。
- ・朝の授業前や週に1度「もくもくタイム」を設定し、基礎・基本の定着を図った。
- ・ICTを授業のどこでどう使うか、児童にはどう使わせるかを工夫して取り組み、効果的に活用できた。発表提示の手助けにし、タブレットドリルを活用して個々の実態に合わせた問題に取り組むことができた。

成果と課題、今後の取組

- ・授業導入の工夫を図ること、課題解決に向けた学習の流れを精査することで、授業実践後の検討会を経て再確認することができた。
- ・「もくもくタイム」の設定は基礎・基本の定着を図るために効果的であった。今後は、各学年の系統を考慮した課題の与え方や時間の設定等を考えていく。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・令和5年度から継続して「基礎・基本の定着を図り、自ら課題解決に取り組む生徒の育成」を研究主題と設定し、授業改善に努めた。学び合いの場を工夫すること、思考の可視化や共有の工夫、効果的なICT機器の活用を意識した授業を実践した。
- ・「学力向上に向けた5つの提言」「子供の学びを支援する5つの提言」を踏まえて、職員会議で共通理解を図り、各教科において、その実現に向けた授業実践に努めた。

成果と課題、今後の取組

- ・学習目標を板書することは、全教科で共通して行うことができた。振り返りの場面の工夫を図ることは、不十分である。
- ・アンケート調査は、各教科や各学年で「分かった」「おおむね分かった」と回答する生徒が多く、CRT等の結果は思わしくない。今後も「5つの提言」を意識し、「分かった」「できた」と回答する生徒が多くなるように、基礎・基本の定着を図る工夫に努めていきたい。

学校教育課

令和6年度実施状況

- ・「行きたくなる学校づくり事業」として中学生を対象に授業評価を実施した。
- ・宮城県教育委員会との連携による「学校サポート事業」は、小中学校教員を対象に合同研修会、各校での授業研究を実施した。

成果と課題、今後の取組

- ・行きたくなる学校づくり事業は、令和3・4年度の指定以後も継続し実施してきた。生徒の授業評価結果を取りまとめ、自分自身の授業の理解や頑張り、先生の授業や要望を教員へフィードバックし授業改善に活用したことで、新規不登校者の抑制に役立てた。
- ・学校サポート事業は、小・中学校教員が合同で意欲的に研修を実施し、宮城県総合教育センターから指導・助言をいただいた。来年度以降も、不登校数の抑制と学力向上に向けて事業を実施していく。

重点施策3. 小・中一貫教育の推進

施策1 小・中学校の円滑な接続を図る教育課程の編成

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・小・中学校の研究主任が作成した「大郷小・中学校9年間の学習ルール」を教室に掲示し活用することで、9年間を見通した系統的な指導に努めた。
- ・「市町村教育委員会との連携による学校サポート事業（2年目）」に取り組み、小・中学校で同一の研究主題を設定した。研究主題に向かって手立てを講じ、互いに授業参観をしたり、研修会を行ったりする中で情報共有に努めた。
- ・小中一貫教育加配として、中学校の体育の教員が週10時間の指導を行い、中学校への円滑な接続が行えるよう努めた。

成果と課題、今後の取組

- ・小中共通の授業ルールの実施は、児童が慣れた環境で安心して中学校での学習に取り組むことができ、円滑な接続を図る環境整備の一助となった。
- ・小中学校の職員がお互いの授業を見ることで、学習内容や学級の雰囲気、情報を知ることにつながった。
- ・中学校教員の専門的な指導は、中学校での準備にもなり円滑に接続することができた。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・部活動見学会、一日入学を実施し、入学前の児童に中学校生活の見通しを持たせ、小中学校の円滑な接続を図った。
- ・「市町村教育委員会との連携による学校サポート事業」に取り組み、小中学校相互に授業参観と研修会を実施した。

成果と課題、今後の取組

- ・1日入学で、児童に直接中学校生活の説明し、小学校とは違う学校生活の内容を理解させることにつながった。
- ・教員間の引継ぎ会を実施し、配慮の必要な生徒の把握ができ、指導の見通しを持つことができた。

施策2 子ども・教員の校種間交流の推進

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・6年生の部活動見学を実施し、中学校進学への意欲を持たせるよう努めた。
- ・園児が小学校1年生の授業参観を行い、小学校入学への期待感を持たせるよう努めた。
- ・異校種交流研修や指導主事学校訪問の参観を通して、園や学校の指導を理解するよう努めた。
- ・大郷町教育研究会による研修で情報共有や資質向上を図る機会を設けた。

成果と課題、今後の取組

- ・6年生が部活動を見学することで、中学校入学に期待感を持つ児童が多く見られた。
- ・園児が、1年生の姿を参観することで、自分たちも小学生になりたいという期待感を持たせることができた。
- ・こども園や中学校の保育や指導を参観することで、学びの連続性を考えるよい機会となった。合同研修会ではニュースポーツを小中学校の教員が一緒に研修し、親睦を深める良い機会となった。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・異校種交流研修は、小学校の様子を知る機会を設け、教員同士で情報交換を行った。
- ・小学6年生を対象に、部活動見学会を10月に、実施した。

成果と課題、今後の取組

- ・異校種交流研修で、小学校やこども園に行った教員から感想を聞き、学んできたことを教職員全体で共有し、学校生活に生かす機会を校内研修に取り入れていく必要がある。
- ・部活動の様子を見せることができ、中学校生活に見通しを持たせることができた。

施策3 子どもの居場所の確かな保証

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・「魅力ある・行きたくなる学校づくり」に取り組み、児童が安心して過ごせる居場所づくりに努めた。
- ・縦割り活動を設定し、異学年交流の機会を確保した。
- ・ホッとルームや通級指導教室など、登校渋りや不登校傾向の児童や配慮の必要な児童の居場所を確保した。

成果と課題、今後の取組

- ・6年生が1年生の世話をを行うことで、最上級生としての自覚を持って活動する姿が見られた。
- ・縦割り活動は、6年生が活動する姿を下級生が見ることで達成感や自己有用感を高めることにつながり、下級生にとっては6年生の姿が目標につながった。
- ・ホッとルームへの登校は心の安定につながった児童が見られた。通級教室で児童の実態に応じた支援を持続させ、「できた」「わかった」という達成感につながった。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・学校環境適応感尺度「アセス」を実施し、生徒一人ひとりの学校への適応の様子について実態把握を行った。
- ・生徒の抱える問題や悩みについて、「振り返りカード」を生徒に毎日記入させ、担任や学年担当教員が確認し、早期の把握と対応をした。
- ・毎月「生活点検アンケート」を実施し、いじめや生徒一人ひとりが抱えている問題の早期発見、早期対応に努めた。
- ・ケアハウスと連携し、不登校生徒の居場所づくりに努めた。
- ・生徒が主体的に活動する場を意図的に設け、教員と生徒、生徒同士で認め合うことで自尊感情を醸成できるようにした。

成果と課題、今後の取組

- ・学校環境適応感尺度「アセス」の結果や「振り返りカード」の生徒の記述内容から、問題行動の把握や、生徒の抱える悩みの早期発見と指導ができた。
- ・「生活点検アンケート」の結果は、学年や職員全体で情報を共有することで、多様な視点からの対応や指導に生かすことができた。
- ・不登校生徒がケアハウスに通所することは、生活のリズムを整えることができ、自分の居場所がある安心感を持つことができた。
- ・運動会の応援では、3年生のリーダーシップの下、全校生徒が主体的に活動することができ、学校生活に対する充実度は高まった。

学校教育課

令和6年度実施状況

- ・小・中学校教員を対象に、行きたくなる学校づくり研修会を2回実施した。
- ・行きたくなる学校づくりの取り組みは、進捗状況の確認のため小・中連絡会議を年3回実施した。
- ・小学校5・6年生と中学生を対象に学校生活に関する意識調査を3回実施した。「学校に来るのが楽しい、授業がよくわかる、今の自分が好き、クラスの人役に立っている」の項目について調査結果を学校毎に振り返り、次回の調査に向け新たな目標設定をした。
- ・小学校6年生を対象に中学校に進学する際の不安や悩みを軽減するアンケート調査を実施した。

成果と課題、今後の取組

- ・研修会や小・中連携会議を通して、児童生徒の居場所づくり、絆づくり、不登校の未然防止に向けた初期対応について、全教員が学ぶことができた。
- ・小・中学校が取り組んできた絆づくり事業を事例集にまとめ、共有することができた。
- ・学校での意識調査を継続し、児童生徒の自己肯定感、自己有用感を高めることのできる行きたくなる学校づくり事業に小・中学校と連携していく。

重点施策4. きめ細かな特別支援教育の充実

施策1 個々の指導計画の立案と実践

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・特別支援学級の担任と教員補助者が連携し、児童一人ひとりの支援内容の共通理解を図るよう努めた。
- ・特別支援学級や通級教室（きらぼし・ことばの教室）での、個別の教育支援計画や指導計画を作成し、児童の実態や成長に合わせ、保護者と連携し確認し、適宜加除修正を行った。

成果と課題、今後の取組

- ・担任と特別支援コーディネーター、通級担当が連携し、児童についてケース会議を開催し、保護者と面談を行い、きめ細やかな指導につなげることができた。
- ・児童の実態に合わせ交流学习や個別学習等の指導形態の工夫に努め、様々な体験活動を通して生活する力、他者と関わる力を高める事ができた。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・特別支援学級の授業に関わる教員を多くし、特別支援学級担当者会議を開き、生徒一人ひとりの支援内容の共通理解を図った。教科毎の指導計画の立案と授業実践に生かせるようにした。
- ・個々の実態に合わせた個別の支援計画と各教科の年間の指導計画を作成し、学習状況に応じて、計画の修正を図りながら指導に当たった。
- ・インクルーシブ教育の推進を図るため、生徒の実態に合わせて協力学級で学習する教科を設定し、交流学习を行った。

成果と課題、今後の取組

- ・多くの教員が特別支援学級の生徒と関わり、生徒の良さを多角的な視点から見付けることができた。
- ・教科の特性と生徒の実態に合わせて、交流学习や複式学習、個別学習を取り入れ、生徒の実態に合わせた指導に努め、集団の中で生活する力や他者と関わる力を高めることができた。
- ・個別の支援計画と指導計画を作成したことで、見通しを持って系統的な指導を行うことができた。今後、教科間の連携を図り、指導の充実を図っていく必要がある。

施策2 教員補助者の適正配置

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・9名の教員補助者配置により、低学年と特別支援学級できめ細やかな支援を行うことができた。休み時間に見守りや、学習や活動に配慮を要する児童に寄り添い安心して学校生活を送れるように努めた。

成果と課題、今後の取組

- ・教員補助者の見守りや支援により、児童は安心して学校生活を送る事ができた。児童の様子や知り得た情報を担任と共有したことは、指導において効果があった。
- ・情報交換が不十分の場合もあったが、限られた状況の中で、担任の意図をくみ取って機転を利かせて支援にあたる姿が見られた。担任との情報共有や教員補助者の職務内容を踏まえた更なる充実を図っていきたい。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・教員補助者が2名配置され、6名の特別支援学級の生徒に加え、支援が必要な生徒の支援に当たった。
- ・特別支援コーディネーターが支援計画を立て、補助者の適切な配置を行った。教科担当の教職員と教員補助者との連絡調整を行った。
- ・毎日の支援内容を記録し、特別支援コーディネーター、特別支援学級担任、学年主任、管理職で情報共有することで、授業での様子を把握できるようにした。

成果と課題、今後の取組

- ・教員補助者が、様々なことに気付き、適切に支援できるので、生徒のつまずきや作業の遅れの解消につながっている。
- ・毎日の支援記録は、生徒の様子や課題を把握でき、個別の対応や授業改善に生かすことができている。

学校教育課

令和6年度実施状況

- ・特別支援学級や通級学級（小学校1・2年生及び中学校1年生、外国籍）に在籍する支援が必要な児童生徒に対し、小学校9名、中学校2名の教員補助者を会計年度任用職員として配置した。
- ・教員補助者の資質向上のため、特別支援教育のコツや具体的支援の在り方について、年2回の研修会を実施した。

成果と課題、今後の取組

- ・教員補助者は、児童生徒の学習支援、生活支援に大きな役割を果たしている。
- ・教員補助者の働きやすい環境づくりと資質向上のため、継続して研修会や意見交換の場を提供する。

施策3 関係機関との連携強化

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・地域コーディネーターに児童の様子を観察してもらい、担任への支援や保護者への教育相談対応への助言をいただいた。
- ・児童が医療機関を受診する際、学校での学習や生活における様子を紙面で情報提供することで、学校と家庭との共通理解を図った。

成果と課題、今後の取組

- ・地域コーディネーターから専門助言をもらい、配慮の必要な児童への支援に活かすことができた。
- ・ケース会議を行い、関係機関と連携を図ることができた。保護者に対して児童の様子を伝えることや、適切な時期に関係機関との連携を図ることができるよう、校内での研修や共通理解を図りたい。
- ・宮城県発達障害者支援センターの事業を活用し、心理や福祉の専門家からの見立てを児童への支援に取り入れることを検討したい。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・特別支援担当と管理職や養護教諭が協力し、関係機関との連携を図った。
- ・進路指導は、支援学校・高等学園の学校見学や教育相談に担任も参加し、情報共有に努めた。
- ・療育手帳更新や医療機関の受診は、保護者と連絡を取り合い、家庭と関係機関との関わりを学校側も把握できるよう努めた。

成果と課題、今後の取組

- ・保護者との連絡で、関係機関との連携も適切に取ることができた。就学支援情報の共有は、教育委員会とも取ることができた。学校見学や教育相談の情報提供を積極的に行い、参加につなげることができた。
- ・個別の支援や学習指導は、県の担当課や特別支援学校との連携を強化し、生徒の指導、支援に当たっていききたい。

学校教育課

令和6年度実施状況

- ・教育支援会議1回、特別支援教育連携協議会2回を開催した。学校医、小・中学校、こども園、町民課と連携し、特別な教育的支援を必要とする幼児、児童生徒に関する情報交換、就学に関する調査及び審議を行った。前年度から引き続き、専門的な立場から助言をもらうため、利府支援学校地域支援教育コーディネーターを委員に委嘱した。
- ・新入学予定の児童の保護者の相談に応じ、小学校と連携して授業見学を行った。

成果と課題、今後の取組

- ・ケース会議は、支援上の問題や成果を小・中学校が事例発表し情報交換ができた。
- ・小・中学校毎のケース会議は、児童生徒への支援、連携強化、情報交換の場として効果的であり、次年度以降も継続する。

2 国際性を備えた豊かな心と健やかな体の育成

重点施策 1. 国際理解教育、外国語教育の充実

施策 1 国際理解教育、外国語教育の充実強化

大郷小学校
令和 6 年度 実施状況
<ul style="list-style-type: none">・外国語専科教員がALTと連携して授業を行うことで、ネイティブな発音によるテンポのよい活動ができ、コミュニケーション能力の素地や基礎を養うよう努めた。・低学年の英語活動では、ALTと一緒にゲームやチャンツなどの活動を行い、英語に楽しく触れる活動を行った。
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・児童が外国語専科教員やALTと積極的に関わる様子が見られた。専科教員が指導することで、学年の系統や評価、同じ基準で行うことができた。・外国籍の児童交流を通して、生活習慣や文化の違いを知り、互いの国を尊重する気持ちを持つ機会となっている。普段から外国籍の児童と積極的に関わる姿が見られ、コミュニケーション能力の育成につながっている。

大郷中学校
令和 6 年度 実施状況
<ul style="list-style-type: none">・英語科の授業に加え、国際理解教育を図るため、社会、音楽、美術、道徳で、様々な国の生活、文化、歴史について学習する機会を設けた。・英語教育は、授業中の指示や発問を英語で行うようにし、英語に慣れ親しむ場面を多くした。
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・外国籍の生徒交流を通して、宗教や文化、生活様式など、日本との違いを学ぶ機会が増え、国際理解と日本の文化や社会の良さを改めて知る機会になった。外国籍の生徒に積極的に関わる生徒が増え、言語の枠を超えたコミュニケーション能力の育成につながっている。・英語で指示、発問を多くすることで、英語を聞く、話す能力を高めることにつながっている。

施策 2 外国語指導助手（ALT）の活用

大郷小学校
令和 6 年度 実施状況
<ul style="list-style-type: none">・外国語専科教員とALTが授業で行うアクティビティや授業の流れの打合せを行い、児童が興味関心を持って授業に取り組めるよう指導の工夫を行った。・低学年の活動は、楽しみながら英語に触れる機会を設けた。
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・児童とALTのやりとりの機会を多く設定することで、「相手に伝えることができた」という達成感を感じ、積極的に学習する姿が見られた。・ALTの母国の紹介や、休み中の過ごし方を紹介することで、多様な文化や見方・考え方に触れる機会となり、外国に興味・関心を持つ良い機会になっている。・授業以外でも、ALTと積極的に関わる児童が増えた。英語で話しかけ楽しんでいる様子が見られた。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・教員とALTが、授業で行うアクティビティの打合せを十分にいき、英語への興味感心を高める工夫を行った。
- ・英語暗唱・弁論大会の原稿のチェックや発表指導を行い、的確な英語を使えるようにALTの協力を得た。

成果と課題、今後の取組

- ・日本の文化を英語で伝えることでコミュニケーションの有用性と英語で伝える喜びを感じさせることができた。
- ・授業以外では、進んでALTに話しかける生徒が多くなり、英語学習への抵抗感が軽減されている。

学校教育課

令和6年度実施状況

- ・外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図るため、自治体国際化協会のJETプログラムを活用し、引き続き外国語指導助手1名を配置した。
- ・中学校に週4日、小学校に週1日（火曜日）勤務した。要請に応じて、こども園にも派遣した。

成果と課題、今後の取組

- ・引き続き、小・中学校に外国語指導助手を配置する。

重点施策2. 健康でたくましい子どもの育成

施策1 指導計画に基づく体力づくりの推進

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・外遊びを奨励し、担任や教員補助者と一緒に遊ぶ時間を持つようにした。
- ・持久走大会や縄跳びチャンピオンに向けて継続的に練習に取り組ませた。

成果と課題、今後の取組

- ・外でドッジボールやサッカー、鬼ごっこをして遊ぶ児童が多くなった。
- ・持久走大会や縄跳びチャンピオンへ向け、児童が意欲を持って運動に取り組む姿が見られた。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・保健体育科の全学年の授業で、5分間走や補強運動、基礎的な体力の向上を図る取り組みを継続的に行った。
- ・長期休業中の運動を確保させるために、毎日の運動記録を記入させた。運動例を提示し、自分に合わせた運動を継続して行うよう助言し、無理なく取り組めるよう工夫した。

成果と課題、今後の取組

- ・基礎的な体力の向上を図る取り組みを継続し、生徒自らが積極的に体力の向上に努めるよう体力づくりの必要性を指導していく。
- ・部活動のウォーミングアップで基礎体力を付けるため、フットワークを取り入れ、体力の向上を図っていく。
- ・登下校は、徒歩や自転車の他、自家用車での送迎も多い。学校だよりで、徒歩や自転車で通学や家庭での運動習慣を推奨し、日常生活の中での基礎体力の向上を啓蒙していく。

施策2 食育指導の充実

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・栄養士による食育指導を行い、給食時間に学級を巡回し、献立や栄養に関する話を食に関する意識を高めるように努めた。
- ・学校で育て収穫した野菜や学校で作ったみそを給食で提供する取り組みを行った。
- ・給食委員が、校内放送で食材のことや残食を減らす呼びかけをして、食への関心を高める取り組みを実施した。

成果と課題、今後の取組

- ・児童が育てた野菜を給食で提供したことで、「植える」「育てる」「収穫する」「食べる」サイクルの体験学習ができ、収穫して食べる喜びも体感できた。・栄養士による食育指導で、児童の食への関心を高めることができた。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・給食指導を通して、栄養士がクラスごとに食育指導を行った。
- ・給食委員が校内放送で地域食材について伝えたり、残食を減らす呼び掛けを行い、食に対する関心を高める取り組みを実施した。
- ・家庭科の調理実習は、感染予防のため、複数人ではなく、一人ひとりで調理し食べる工夫をした。

成果と課題、今後の取組

- ・担任の指導や給食委員会の呼び掛けを通して、残食の量を減らしていきたい。
- ・給食委員の呼び掛けを次年度も継続して行い、食に対する関心を高めていきたい。
- ・感染予防に注意し工夫して家庭科授業で食育指導を行っていく。

施策3 環境教育の充実

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・教材園を使い様々な野菜を育て、栽培や収穫の活動を行った。花や野菜の成長過程を常時観察できる環境を整え、栽培管理を楽しく行えるよう配慮した。
- ・緑化委員会が水やりや植栽活動を行った。校内に季節の草花を飾り、環境整備に努めた。
- ・環境委員会が、ペットボトルのふたを回収し、ポリオワクチン活用のため、寄付を行った。

成果と課題、今後の取組

- ・地域ボランティアの皆さんに、教材園に「郷の有機」を入れ耕す作業をしていただいた。
- ・農作物の世話を行える環境が、勤労生産への意欲を高め、児童は収穫の喜びを味わうことができた。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・プランターにチューリップを植える委員会活動を春に行い、生徒が率先して学校敷地内の環境整備に取り組んだ。
- ・鉱物、植物や水生生物を展示するスペースを理科室前に作り、環境について興味を喚起できるよう工夫した。
- ・特別支援学級では、畑作りの活動に継続して取り組み、体験を通して環境を守ることの大切さを学べるようにした。

成果と課題、今後の取組

- ・チューリップが育ち、生徒、職員、来校者に潤いのある景観を提供している。
- ・環境に関する展示スペースで日々情報に触れたことで、地球環境や生態系に対する関心が高まった。
- ・畑作りは、夏野菜の栽培を行い、収穫を通して土壌づくりや気象条件、自然環境の大切さに気付くことができた。

重点施策3. 「ふるさと教育」の推進

施策1 社会科副読本「私たちの大郷町」の活用

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・3年生社会科「町のようす」の学習は、大郷町の地形、地区、交通、施設を確認するために、資料や写真、説明を活用した。
- ・4年生総合的な活動「にわたりのいる町 大郷」「仙台牛の郷 大郷」の学習は、大郷町で飼育されている鶏や肉牛について学習する際に使用した。

成果と課題、今後の取組

- ・自分たちが住む町について、豊富な資料と詳細な説明があり、社会科だけでなく総合的な学習の時間にも有効に活用することができた。

学校教育課

令和6年度実施状況

- ・自分たちが住む身近な地域を学ぶ教材として、社会科副読本を小学校3年生に配布した。

成果と課題、今後の取組

- ・5年毎に改定してきたが、地域の情報の変化やタブレット端末に対応するため、毎年修正を加えられる社会科副読本を作成していく。

重点施策4. 夢や志を持った児童生徒の育成

施策1 志教育の推進と支援体制の整備

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・志教育の「かかわる」「もとめる」「はたす」視点を設定し、身近な人々と接することでの学び、目標を持って学習や体験活動に取り組むことの学び、家庭での手伝いや学級の係活動・清掃活動を通じた学びを見童が確実に継続できるように、教育課程編成の工夫を行った。
- ・志シートを活用し、目標を持たせ、振り返りを行い、自分の成長を感じ、自信をもって次の活動に向かえるようにした。

成果と課題、今後の取組

- ・田植えや稲刈り、養鶏や和牛の飼育に関わる地域の方に出前授業を依頼し、児童が仕事の苦労や工夫について直接話を伺い、仕事に誇りや喜びを持って取り組むことのすばらしさを知ることができた。地域の良さにあらためて気付く機会となった。
- ・目の不自由な方が出前講座を社会福祉協議会や保健福祉課と連携し行い、児童が多様性について学ぶ機会を確保した。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・3年間で系統的にキャリア教育を実践できるよう計画し、1年生の仙台自主研修、2年生の職場体験学習、3年生の進路学習を実施した。
- ・「キャリア・パスポート」を活用し、生徒が自らを振り返り、将来への目標が持てるよう働き掛けた。
- ・志教育の3つの視点を各教科の内容に応じて位置付け、横断的・総合的に学習を行った。

成果と課題、今後の取組

- ・「キャリア・パスポート」は、生徒の夢や目標に向けての努力事項を書かせ、保護者と担任が励ましのコメントを書くことで、生徒の意欲を高めることができた。卒業生は、進学先の高校に「キャリア・パスポート」を引き継ぎ系統的な教育の推進に努めた。
- ・職場体験学習を再開し、関心のある職業を調べ、体験し、新聞にまとめ、職業観について自分の考えを持たせ、将来の進路について考えさせることができた。
- ・題材や単元の内容を教科担当が再度確認し、授業内でも生徒の進路に関する指導をできるよう取り組んでいく。

施策2 家庭の教育力の向上

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・学校だよりやPTA懇談会資料は、学習や生活に関する啓発資料を掲載し、保護者の教育に関する意識を高められるように努めた。
- ・夏期休業中に教育相談を行い、児童の学習や学校生活の状況を伝え、家庭の協力をお願いした。

成果と課題、今後の取組

- ・おたよりやホームページへ学習の取り組みや結果を掲載し、保護者の学習に対する関心を高めることにつながった。
- ・PTA主催で、家庭の教育力の向上の講演会を開催予定している。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・学年だより、進路だより、PTA懇談会資料で、学習への取組方や進路情報を伝えた。生徒と保護者が課題意識を共有し、学習や進路に対応できるよう工夫した。
- ・全学年で教育相談を行い、保護者と直接話す機会を設けた。生徒の学習や学校生活の状況を伝え、家庭と学校で共通認識の下、子供に関われるよう図った。
- ・定期考査の学習計画を立て、記録を取る習慣を身に付けさせた。保護者が学習の進捗状況をチェックする仕組みを構築し、生徒の家庭学習の取組状況を学校と保護者で共有した。

成果と課題、今後の取組

- ・生徒の学習の取り組みや結果を保護者に媒体を通して伝え、学習や進路に対する情報の共有と家庭での効果的な声掛けにつながっている。
- ・11月の教育相談を全学年で行い、家庭と直接話す機会を設け、課題の共通認識と早期対応につなげることができた。
- ・家庭学習の習慣を身に付けるため、働き掛けを継続して行い、様々な学習方法を提案できるように工夫していきたい。

社会教育課

令和6年度実施状況

- ・新型コロナウイルス感染症流行前は、子育て世代の保護者向けに学びと交流の場の提供を主に行っていた事業である。令和6年度はコーディネーターとの打ち合わせを実施し、次年度に向けた人脈の再構築を図った。

成果と課題、今後の取組

- ・家庭教育力の低下が顕著とされている昨今において、家庭教育力強化につながる事業の実施には一定のニーズがあると考えられる。学校とコーディネーターの協議の場を設け、支援内容を明確にしたうえで、事業を展開する。

重点施策5. 安心で安全な学校給食の提供

施策1 食育の推進と関係機関との連携

学校給食センター

令和6年度実施状況

- ・学校給食センター運営委員会、地場農産物利用推進委員会を開催し、安心・安全な給食の円滑な提供、地場産品の積極的な利用に向け関係者と連携を図った。
- ・小・中学校の全クラスを栄養士が訪問し、食事のマナーや献立について食育指導を行った。
- ・食物アレルギー対応マニュアルに基づき、保護者に学校生活管理指導表（診断書付）を提出してもらい、食物アレルギー事故防止の徹底を図った。
- ・合併70周年・町制施行65周年記念学校給食を建町記念日に提供した。
- ・パリオリンピック・パラリンピック2024応援給食を7月に提供した。
- ・大郷牛を使った給食を提供し、地域の食材と生産者に関心をもってもらう取り組みを行った。
- ・小学6年生と中学3年生を対象に給食の献立作成について指導を行った。児童生徒が作成した給食献立を1月に給食で提供した。

栄養士の学校訪問（小学1年生）



大郷産牛肉を使用した給食



オリンピック応援給食

成果と課題、今後の取組

- ・学校給食センター運営委員会、地場農産物利用推進委員会は、意見交換を行ったことで、関係者との連携や協力体制の意見交換を進めることができた。
- ・大郷町産や宮城県産の食材を使用し、地域や社会に関心をもち、地産地消の理解や地域への愛着を育むことができた。
- ・児童生徒が作成した献立作成を通して食への関心を高めることができた。

施策2 学校給食施設・設備の整備・充実

学校給食センター
令和6年度実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に設備の保守点検を行った。 ・厨房機器や地下タンク液面計の故障や破損が発生し、速やかに修繕を行った。
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none"> ・保守点検を実施し、給食提供に支障のない給食センターの管理・運営ができた。 ・給食センター施設は築27年となる。個別整備計画に基づき、外壁、蒸気配管など計画的に改修・整備を行っていく。

3 安心安全で信頼され魅力ある教育環境の整備

重点施策1. 安心安全で開かれた学校づくりの推進

施策1 学校評議員の活用及び学校評価等の公開による開かれた学校づくりの推進

大郷小学校
令和6年度実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・7月に第1回学校評議員会、2月に第2回学校評議員会及び評価委員会を開催した。 ・第2回評議員会は、事前の評価シートを取りまとめ、資料を基に有意義な協議を実施することができた。 ・児童と保護者の学校評価アンケートを実施し、結果考察及び改善策について保護者に周知した。
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会及び評価委員会の結果を保護者に周知することで、評価の公平性を図るよう努めた。 ・授業の様子や学校行事へ学校評議員に足を運んでもらうよう学校便りや行事案内を配付した。学校の様子を見てもらい、改善点のご意見をいただいた。

大郷中学校
令和6年度実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・10月と2月の年2回、学校評議員会を実施した。 ・生徒及び保護者対象の学校評価アンケートを年2回実施し、その結果と考察及び対策を保護者に周知した。 ・学校だより写真を多く掲載し、視覚的に情報を伝える工夫を行った。
成果と課題、今後の取組

- ・学校評議員会は、授業参観をし、家庭の教育力の向上や地域の抱える課題などを共有した。子育て世代の保護者意見も取り入れられるよう評議員の編成を工夫する意見が出された。
- ・学校評価の回答をグーグルフォームで行い、効率的に保護者の意見を集約することができた。保護者からの意見等を検討し、次年度の学校経営に生かすことができた。
- ・学校だよりを13号発行し、学校の情報を家庭に共有した。次年度は学校ホームページを開設し、学校生活の様子をタイムリーに情報を提供することにより、更に開かれた学校づくりを推進していきたい。

重点施策2. 教育相談体制の推進

施策1 校内指導体制の充実

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・毎月、心のアンケートを実施し、児童一人ひとりが抱える悩みや困り感の把握に努めた。解決へ向けて全教員で支援を行い、魅力ある学校づくりを推進した。
- ・児童の気になる様子について職員会議で情報交換を行い、全教員で見守る体制を整えた。
- ・スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、心のケア支援員と連携し、それぞれの立場での関わりができる体制を整えた。

成果と課題、今後の取組

- ・各学年の状況からスクールカウンセラーの介入が必要な案件の検討を行い、担任を通じて保護者の意向を確認し相談につなげる取組を行った。
- ・生徒指導主任が心のアンケートを集約し、各学級担任及び学年主任等に個々の事案の状況と対応を確認した上で、職員会議での情報共有を効果的に行った。
- ・スクールカウンセラー、心のケア支援員と担任の児童に関する情報共有を行い、連携を強め、より多角的に児童に接することができるようにしていく。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・毎週火曜日に生徒指導部会を実施した。生徒指導主事・主幹教諭・養護教諭・各学年生徒指導担当に加え、スクールカウンセラーを交え、気になる生徒について共通理解を図り、複数の目で対応策を検討するようにした。
- ・スクールカウンセラーと連携し、生徒が抱える課題を解決するため、情報共有を行った。
- ・教育相談（二者面談、三者面談）を通して、担任が直接話し、生徒の悩みや問題に寄り添って支援を行った。

成果と課題、今後の取組

- ・スクールカウンセラーを生徒指導部会に新たに加えたことで、生徒の抱える悩みの早期発見、支援につなげることができた。
- ・教育相談により、悩みの軽減を図るだけでなく、進路や学習、学校生活への目標を持たせることができている。

施策2 心のケアハウス事業の推進

ケアハウス「とらいあぐる」
令和6年度実施状況
<ul style="list-style-type: none">・「進んで挨拶をする」「自分で計画を立て実行する」「自分の思いを伝える」ことのできる児童生徒を目指して活動を行った。・児童生徒に合った学習支援と体験活動を計画的に行った。・保護者会を年4回実施し、ケアハウスの運営方針や児童生徒の取組み状況を知らせた。定期的に「とらいあぐるだより」を発行した。・ケアハウス開設207日、児童生徒の来所支援延べ1,021人、保護者への支援936件。
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・自分なりに計画を立てて学習したり、思いを伝えたりすることができている。・学習した結果を確実に評価し、満足感につなげることができた。野菜栽培（ジャガイモ、大根など）やお楽しみ会を実施し、その中で助け合う姿が見られた。・送迎時は、保護者と情報交換を行い、ケアハウスでの様子を伝えることができた。・小学生6年生1名、4月から学校復帰につなげることができた。・中学3年生が多く来所予定で、進路指導や学習支援の充実を図っていく。

学校教育課
令和6年度実施状況
<ul style="list-style-type: none">・みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業補助金を活用し、ケアハウスの運営及び施設の維持管理を行った。・他のケアハウスの取組や支援方法、不登校に対応した高校の学校経営や卒業後の進路について研修をするため、ケアハウス職員が田尻さくら高等学校と貞山高等学校を視察した。・ケアハウス職員と指導主事が児童生徒の様子や支援方法について、毎月情報交換を行った。
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・スーパーバイザー1名、コーディネーター4名を配置した。来所者が減少したことで、家庭・学校支援のため、小中学校へ出向いた。今後も家庭・学校と連携を深め、児童生徒個々の支援にあたっていく。

施策3 関係機関との連携強化

大郷小学校
令和6年度実施状況
<ul style="list-style-type: none">・不登校傾向にある児童について、ケアハウスの職員と積極的に情報交換を行った。・スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーと連携し、保護者の悩みや児童の特性、家庭の状況を把握し、支援の在り方について協議検討した。・定期的に医療機関を受診している児童は、保護者と学校での生活や学習の様子を紙面で情報提供したり、保護者を通して医療機関のアドバイスを受けたりするなどの連携に努めた。
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・学級担任とケアハウス職員との情報交換を定期的に設定し、同一歩調で支援に当たることができた。学級担任がケアハウスでの児童の活動の様子を見て、励ましや承認する機会を持つことができた。・医療機関からのアドバイスを児童の支援に活かし、特性に配慮した対応が出来るよう今後も校内での支援会議の充実や研修を推進する必要がある。・ケアハウスに通所している児童を担当が訪問する機会も設定できるようにしていく。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・学級担任や学年担当職員がケアハウスを訪問し、通所生徒との面談やケアハウス職員との情報共有を行った。
- ・スクールソーシャルワーカーと連携し、面談生徒や保護者の悩みや問題を共有し、解決に努めた。
- ・家庭、各関係機関が連携し、問題の解決を図るよう努めた。

成果と課題、今後の取組

- ・ケアハウスに通所する生徒が学校生活への関心を高めることにつながり、行事への参加のため登校した。
- ・教員がスクールソーシャルワーカーと継続的に面談を行い、情報を共有することで問題解決の方策を相談し、同一の方向性で対応することにつながっている。
- ・外部機関と学校窓口を一本化することで、迅速かつ組織的な対応をすることができた。

心のケアハウス「とらいあんぐる」

令和6年度実施状況

- ・園長・校長会議において児童生徒一人ひとりの活動の様子や課題について情報交換を行い、学校や担任とのつながりや今後に向けての支援につなげた。
- ・スクールソーシャルワーカーと保護者との相談が継続的に行われ、保護者へのサポートにつながった。相談内容を共有し、本人の活動や支援の在り方を考えることができた。
- ・スクールカウンセラーの来所によって、児童生徒の情報を共有し、今後の支援に活かすことができた。

成果と課題、今後の取組

- ・小中学校の担任や先生方の来所が多くなり、児童生徒が元気を取り戻したり、学習や活動への意欲を喚起したりすることにつながった。
- ・保護者や児童生徒に学校行事や校外学習、職場体験を事前に知らせた結果、参加する児童生徒が増えた。
- ・特性に応じた支援ができるよう、学校や関係機関との連携強化に努め、適切な支援ができるよう積極的に研修会に参加していく。

学校教育課

令和6年度実施状況

- ・園長・校長会議にケアハウスのスーパーバイザーが出席し、小・中学校での不登校対応、ケアハウスの状況について情報交換し、不登校児童生徒の共通理解を深めた。
- ・児童生徒の抱える様々な問題に環境面から支援するため、スクールソーシャルワーカー1名を配置し、小・中学校及びケアハウスで月2回情報交換するとともに、不登校児童生徒の保護者の相談に応じた。

成果と課題、今後の取組

- ・園長・校長会議で、不登校児童生徒の情報を共有し共通理解を深め、協力して対応にあたる。
- ・小・中学校、ケアハウス、学校教育課、町民課、保健福祉課が連携し、適宜ケース会議を開催する。
- ・スクールソーシャルワーカーを引き続き配置し、相談体制整備と小・中学校とケアハウスの連携を強化する。

重点施策3. 時代のニーズに即応した教育環境の整備

施策1 ICT教育の環境整備と充実

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・タブレット端末や電子黒板の効果的な活用方法は、ICT推進委員の教員が中心となり、アプリやツールの活用方法、授業での活用の具体例など積極的に情報共有を行った。
- ・タブレットの修繕は、学校教育課担当者やICT支援員と連絡調整を適宜行い、環境整備に努めた。

成果と課題、今後の取組

- ・授業での効果的なタブレット端末の使用は、教員が創意工夫をし、実践に取り組んだ結果、ICTスキルの向上につながった。教員、児童ともにICT活用の幅が広がった。
- ・児童のICTスキル向上及び教員のICT活用能力向上、PCやタブレットのメンテナンスの相談、年度当初からのICT支援員の配置を希望したい。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・タブレット端末の使い方や情報モラルは、短学活や総合、教科の授業で繰り返し指導した。
- ・タブレット端末の紛失を防ぐために、点検確認や保管庫の施錠を徹底した。
- ・年度当初にICT研修会を実施し、校務用ノートPCの使い方やアプリの説明、タブレット端末や大型電子黒板の使い方、ロイロノート等の活用方法などについての理解を深めた。

成果と課題、今後の取組

- ・ロイロノートの共有ノート機能を活用できる教員が増えた。Googleフォームを用いたアンケートなどを授業で使う教員が増えた。
- ・英語科でデジタル教科書が導入され、タブレット端末を効果的に使い、個に応じた学びができるよう、ICT機器を更に活用した授業づくりを推進する必要がある。様々なアプリの活用方法について教職員間で教え合い、学び合って、ICT教育を推進していきたい。

学校教育課

令和6年度実施状況

- ・GIGAスクール構想に基づき、ICT教育を推進するため、小・中学校の情報教育担当者各2名、学校教育課職員を委員とする大郷町ICT教育推進委員会を年3回開催した。
- ・大郷町立学校情報機器使用規定及び大郷町立学校学習情報通信機器貸与事業実施要綱に基づき、学校内での活用の定着、家庭へのタブレット端末の持ち帰りを促進した。

成果と課題、今後の取組

- ・ICT教育推進委員会で、小・中学校でのICT機器の使用状況や活用に伴う課題等を情報共有することができ、今後の活用に生かすことができた。

施策2 家庭・地域と連携し、安全なスクールバス運行

大郷小学校

令和6年度実施状況

- ・担当者がマナーや交通安全について指導する「スクールバス指導」を行った。
- ・6年生のバスリーダーが中心となって乗車のルールを守るよう、学級担任及び担当が指導を行った。

成果と課題、今後の取組

- ・担当が連絡を密にすることで、中学校、バス会社との連絡調整が円滑に行われた。
- ・バスの乗車マナーは、担当者が直接指導を行ったり、乗車して状況把握を行ったりした。みんなが気持ちよく利用できるよう交通安全指導を継続していき、座席も決めるようにしていく。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・大松沢地区の生徒がスクールバスを利用している。
- ・2月の新入生保護者説明会にて、スクールバスの運行計画を説明し、バスの経路や停留所の確認をした。
- ・毎月の登下校の詳細な運行時間を学年便りに載せ、保護者に周知を図った。

成果と課題、今後の取組

- ・小学校との乗り合いのため、より細かな運行計画を立てることが必要である。
- ・学校行事により、バスの運行を変更することが難しく、生徒のバス待ち時間が長くなってしまったことがあった。

学校教育課

令和6年度実施状況

- ・児童生徒の安全な通学のため、小学校で通学距離が2km以上となる児童を対象に7路線、中学校で大松沢地区に居住する生徒を対象に2路線でスクールバスを運行した。小学生188名、中学生24名が使用した。
- ・学校教育課内、まちづくり政策課、小・中学校、バス事業者と協議し、限られた予算の中で持続可能で、より効果的、効率的な運行ができるように検討した。

成果と課題、今後の取組

- ・住民バス、ふれあい号、スクールバスの利用者の利便性を考慮し、総合的な公共交通体制を関係各課と検討し、スクールバスの利便性、全体的な費用対効果から、引き続きスクールバスとしての運行を継続した。

重点施策4. 上級学校進学への支援

施策1 奨学資金貸与制度を奨励し、上級学校へ進学する機会の拡充

学校教育課

令和6年度実施状況

- ・奨学資金貸与について広報おおさと、町のホームページに掲載し、貸与希望者を募集した。
- ・令和6年度の奨学資金償還対象者は、55名であった。

成果と課題、今後の取組

- ・4月と9月に募集したが、本年度の応募者は0人であった。
- ・奨学資金制度を広く町内にPRする。
- ・奨学資金の償還金が新たな貸与金になることを踏まえ、滞納者に電話催告、督促状送付、納付相談を実施した。

施策2 住民バス運行等による公共交通機関への接続確保

学校教育課
令和6年度実施状況
・住民バスは、高校進学時の通学、スクールバス以外の児童生徒の通学的手段となることから、必要に応じて住民バス担当課と情報交換を行った。
成果と課題、今後の取組
・住民バス、ふれあい号、スクールバスの利用者の利便性を考慮した、総合的な公共交通体制の検討のため、全体的な費用対効果、利便性についても今後検討していく。

4 学校・家庭・地域が連携することによる協働教育の推進

重点施策1. 地域全体で子どもを育てる環境づくり

施策1 ボランティアによる登下校指導

大郷小学校
令和6年度実施状況
・地域の方に児童の登校を見守るため、安全指導をしていただいた。 ・バスボランティアは、実施することができなかった。
成果と課題、今後の取組
・地域の方々の協力により、児童が安全に登校することができた。地区内での危険な行動や危険場所の情報をもらい、指導対応することができた。

社会教育課
令和6年度実施状況
・小学校新1年生を対象に、新入学期間中（4～5月）どんぐりの会や更生保護女性会、個人ボランティアの方々の協力を得てスクールバスの乗降支援を実施していたが、行動制限中だった令和4年度までと同じく実施することが出来なかった。
成果と課題、今後の取組
・コロナ禍の4年間で従来協力を仰いでいたボランティアの方々との繋がりがリセットされた状態になってしまっているため、地域住民を含む協力体制の再構築を行わなければならない。 ・新1年生の保護者ボランティアだけでなく、世代間の引き継ぎで輪が途切れないように、幅広い年代層の人材確保を行えるようにする。

施策2 関係団体との連携強化

大郷小学校
令和6年度実施状況
・交通安全教室や防犯教室は、駐在所警察官や交通指導隊の方に安全な歩行や自転車走行の仕方、不審者対応の指導をしていただいた。 ・社会科や総合的な学習は、ゲストティーチャーや外部講師から児童に様々なことを教えてもらった。農作物の栽培や牛の飼育は、長年農業に携わってきた方から、直接思いを聞くことができ、貴重な学びの時間となった。 ・町内めぐりを3年生の校外学習で行い、バス会社の方々に下見やルートを考えてもらい協力いただき、充実した学習になった。
成果と課題、今後の取組

- ・農家の方に話を聞き、田植えや稲刈りを直接教えてもらい体験することができた。
- ・社会教育課で進めるアウトリーチは、迫力のある生の芸術に触れることができた。
- ・楽天未来塾やベガルタサッカー教室は、夢や志を持って活躍するスポーツ選手との関わりから、自分の目標に向かって努力することの大切さに気付いた児童が多かった。
- ・プログラミング教育の一環として学年に応じたドローン操作体験教室を開催した。次年度も継続して行いたい。

大郷中学校

令和6年度実施状況

- ・まちづくり政策課と連携し、ドローンを活用したプログラミング学習を総合的な学習の時間に実施した。
- ・2年生では、吉田川の河川復興工事業者から、治水や先進的な技術を用いた土木工事現場で学習を行った。
- ・おおさとまつりでは、大和署の方と道の駅おおさとで、交通安全の啓発活動に参加した。

成果と課題、今後の取組

- ・ドローン活用授業は、小学校でのプログラミング学習と同様であり、生徒にとって有用な内容に変更していく必要性を感じている。
- ・イベントへの協力依頼が重なることが多くできる限り対応したい。日常的に関わりを持てるよう連携協力を図りたい。

社会教育課

令和6年度実施状況

- ・小学校6年生を対象とした「自然体験学習事業」は、松島自然の家を利用してシーカヤックやキャンプファイヤー等、様々な体験学習を実施した。
ジュニア・リーダー育成のため、インリーダー研修の要素を取り入れ、より主体性を育むメニューで実施することができた。
20名の募集に対して12名の応募があり、怪我なく参加児童全員で事業を終えることができた。

成果と課題、今後の取組

- ・小学6年生対象事業は、中学生になってからの地域活動でリーダーシップを発揮できる人材を育てられるよう、より質の高いインリーダー研修として実施したい。

重点施策2. 協働教育推進事業の展開

施策1 魅力ある教育活動を推進する人材の確保・活用

社会教育課

令和6年度実施状況

- ・大郷小・中学校の学校菜園への環境整備支援については地域ボランティアの方々の協力をいただき、実施することができた。

成果と課題、今後の取組

- ・継続して実施し得る事業については、輪を途切れさせることの無いように継続させていくため、学校や関係団体との連携を深めたい。
- ・地域住民や児童・生徒に対し、継続した協働教育推進事業の周知を図りながら、活動に協力していただけるボランティアの方々の固定化と高齢化を避けるため、人材の確保と育成に努める。

重点施策3. 放課後子ども教室事業の推進

施策1 学習活動の推進

社会教育課
令和6年度実施状況
・新型コロナウイルス感染症流行前に行っていた「郷小舎事業」は、令和6年度においても実施することは出来なかった。
成果と課題、今後の取組
・児童館が完成し、事業の在り方そのものを見直す必要がある。従来行っていた事業とは別の視点に立った計画と活動を考えなければならない。

施策2 体験学習の充実

社会教育課
令和6年度実施状況
・夏休み期間中のプールを利用して「水辺の安全教室・SUP体験」を実施した。 (参加者8名)
成果と課題、今後の取組
・様々な体験学習を実施できるように事業の検討を行っていききたい。 ・夏季期間中のプールを活用した事業を工夫していききたい。

5 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

重点施策1. 社会教育・生涯学習事業の推進

施策1 生涯学習情報の発信、学習機会の提供及び支援

社会教育課
令和6年度実施状況
・学習事業や教室の主催事業については、対象となる児童・生徒への募集チラシの配布を直接行ったほか、一般町民向けには町広報誌への掲載や町公式SNS（ライン）の活用等、場面に合わせた情報発信や学習機会の提供を行った。
成果と課題、今後の取組
・参加への興味を持ってもらえる事業の検討を行い、従来使用している周知方法を活用して町民に積極的に情報提供を行っていききたい。特定の媒体に偏ることなく、各世代に合致した方法を選択して発信を行うことを心掛けたい。

中央公民館

令和6年度実施状況																		
(1) 子ども（親子）対象事業の実施																		
<table border="1"><thead><tr><th>事業名</th><th>開催回数</th><th>参加者数（延べ）</th></tr></thead><tbody><tr><td>・公民館だより発行</td><td>2回</td><td>—</td></tr><tr><td>・親子で遊ぼう！</td><td>3回</td><td>親子10組・31名</td></tr><tr><td>・親子でクッキング</td><td>3回</td><td>親子13組・27名</td></tr><tr><td>・おもしろ科学実験教室</td><td>1回</td><td>10名</td></tr><tr><td>・星空を見る会</td><td>1回</td><td>33名</td></tr></tbody></table>	事業名	開催回数	参加者数（延べ）	・公民館だより発行	2回	—	・親子で遊ぼう！	3回	親子10組・31名	・親子でクッキング	3回	親子13組・27名	・おもしろ科学実験教室	1回	10名	・星空を見る会	1回	33名
事業名	開催回数	参加者数（延べ）																
・公民館だより発行	2回	—																
・親子で遊ぼう！	3回	親子10組・31名																
・親子でクッキング	3回	親子13組・27名																
・おもしろ科学実験教室	1回	10名																
・星空を見る会	1回	33名																

(2) 高齢者対象講座の開講

事業名	開催回数	参加者数(延べ)
・喜楽喜楽倶楽部	6回	149名

(3) 一般成人対象講座の開講

事業名	開催回数	参加者数(延べ)
・レディース倶楽部	6回	71名
・メンズ倶楽部	2回	24名

(4) 趣味・教養講座

事業名	開催回数	参加者数(延べ)
・心と体のヘルスケア講座	3回	13名
・世界の料理教室	3回	23名
・大人のためのぬり絵講座	3回	19名
・男の料理教室	3回	10名

(5) 図書室の充実強化

○図書貸出状況

利用者居住地区	利用人数(延べ)	貸出冊数
・大谷地区	915人	3,381冊
・粕川地区	369人	1,185冊
・大松沢地区	175人	436冊
・町外	173人	508冊
・移動図書	12回	360冊
・合計	1,644人	5,870冊

*貸出冊数のうち 一般書 2,644冊 児童書 2,866冊

*前年度比 利用人数 -354人 貸出冊数 +270冊

○令和6年度図書購入・寄贈冊数

・一般書 購入 126冊 寄贈 344冊 合計 470冊

・児童書 購入 73冊 寄贈 1冊 合計 74冊

成果と課題、今後の取組

- ・幼児から高齢者まで幅広い世代を対象とした講座・教室を開設し、学習機会の提供と仲間づくりの支援を行った。今後も住民の要望を踏まえながら時代の変化に即した講座・教室を開設し、継続して学習ができる環境づくりと新規受講者の獲得に努めていく。
- ・未就学児や保護者の図書室利用は、今後も利用しやすい環境の整備、利便性の向上に努め、広報紙やSNSで情報を発信し、利用促進を図っていく。
- ・ケアハウスに本の移動貸出を継続的に行った。ケアハウス通所者が図書室に来て本を選ぶ機会があり、連携を図っていく。

施策2 社会教育団体の支援及び社会教育指導者の育成

社会教育課

令和6年度実施状況

- ・社会教育関連各団体へ補助金を交付し、活動の支援を行った。
 - 「大郷町青少年健全育成町民会議」 140千円
 - 「大郷町子ども会育成会」 170千円
 - 「大郷町青年団」 133千円
- ・大郷町青少年健全育成町民会議は、青少年の健全育成に関する啓発活動について支援を行った。
- ・大郷町青年団では活動への施設貸し出しや、企画運営・情報発信等の支援を行った。

成果と課題、今後の取組

- ・社会教育関係各団体の事業に対し運営補助を行うことで、円滑な活動に貢献することができた。また、活動場所として町施設を提供する等の支援も行った。
- ・社会教育各団体の活動が活性化するように今後も継続して支援に努める。
- ・各団体ともに新たな世代の人材育成が急務であることから、支援方法も含めて検討し、改善すべきところは改善を加えながら育成支援を行う。

施策3 社会教育施設の改修・整備

社会教育課
令和6年度実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度までに必要な施設改修・整備を行っていたため、令和6年度中に必要とされたものは特になかった。
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none"> ・新たに粕川防災コミュニティセンターが建設され、当課で管理運営を行うため、地区協議会と協力し、町内外の多くの方々に利用していただけるよう、周知や事業の実施を図っていきたい。 ・他施設については、経年劣化による改修・修繕が今後ますます見込まれるため、適切な予算計上に基づく維持管理を行いながら、今後も利用者が安心安全に使用できるように、各施設の整備・修繕に努める。

中央公民館
令和6年度実施状況
【中央公民館】 <ul style="list-style-type: none"> ・AED本体及び付属品更新 253千円 【各分館】（補助率50%） <ul style="list-style-type: none"> ・川内分館 … 畳入替 139千円 ・東成田分館 … 駐車場舗装 1,612千円 ・吉ヶ沢分館 … エアコン取替 278千円 ・江戸沢分館 … 照明器具交換 98千円
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none"> ・AED機器本体と付属品の入替えを行い、安全に使用できるようにした。 ・各分館からの要望に対し補助金の交付を行った。築20年以上経過する分館が増え、改修工事や塗装工事が多くなっている。各行政区と協議しながら、利用者の利便性や安全性を図るよう努めていく。

重点施策2. 青少年の健全育成の推進

施策1 青少年健全育成の啓発活動への支援・協力

社会教育課
令和6年度実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・大郷町青少年健全育成町民会議に対して140千円の補助金を交付し、啓発活動等の継続した活動への支援を行った。
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none"> ・町内の会員向け研修会等は令和6年度に行うことができなかった。 ・青少年健全育成活動の実態が伴わない限り町民への浸透も望めないため、町民の目に留まる企画や事業の検討を行う。

施策2 ふれあい交流事業等、各種体験活動への参加促進

社会教育課
令和6年度実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・小学6年生対象の自然体験学習事業を松島自然の家を会場に1泊2日の日程で実施した。(参加児童：12名) ・ジュニア・リーダー活動は、富谷黒川地区4市町村共催の初級研修会への参加や、交歓会の実施等、交流を通じて仲間づくりや自己研鑽の機会を広げた。
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験学習の機会を提供できるように事業の計画を行いたい。 ・小学校高学年児童対象の事業は、地区でのリーダー育成を念頭に置いて、子ども会活動への連結性も持たせるように計画したい。 ・活動を継続しているジュニア・リーダーがいなくなり、人材育成と活動支援に努める必要がある。

重点施策3. ライフステージを踏まえた公民館事業の展開

施策1 各種団体、地域コミュニティ組織活動への協力

中央公民館
令和6年度実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ○公民館を拠点として活動する団体への助言、援助 ○大松沢コミュニティ推進協議会、ふれあいセンター推進協議会、粕川地区コミュニティ推進協議会組織の支援
成果と課題、今後の取組
<ul style="list-style-type: none"> ・活動する団体の高齢化が進み、利用頻度が減少してきている。団体に対して、活動の助言や施設利用の援助を継続的に行った。会員の高齢化、新入会員の減少の課題があり、継続して活動を行えるよう支援していきたい。 ・地域コミュニティ組織は、社会情勢に合わせて各組織の自主的、積極的活動がスムーズに進むよう指導助言に努めていく。

施策2 地域に根差した分館活動の活性化支援

中央公民館																								
令和6年度実施状況																								
(1) 分館長会議及び分館活動の支援																								
○分館長会議																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>内 容</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月20日(木)</td> <td>・分館長会全体会 ・分館長会総会</td> <td>17名出席</td> </tr> <tr> <td>6月15日(木)</td> <td>・研修会(ニュースポーツ体験)</td> <td>9名出席</td> </tr> <tr> <td>7月7日(金)</td> <td>・役員会</td> <td>5名出席</td> </tr> <tr> <td>11月11日(土)</td> <td>・移動研修会(宮城野区港エリア)</td> <td>7名出席</td> </tr> <tr> <td>12月14日(木)</td> <td>・役員会</td> <td>5名出席</td> </tr> <tr> <td>1月27日(土)</td> <td>・黒川地域公民館分館長・公民館協力員大会</td> <td>6名出席</td> </tr> <tr> <td>R7.4月26日(土)</td> <td>・会計監査会 ・役員会</td> <td>7名出席</td> </tr> </tbody> </table>	実施日	内 容	備 考	4月20日(木)	・分館長会全体会 ・分館長会総会	17名出席	6月15日(木)	・研修会(ニュースポーツ体験)	9名出席	7月7日(金)	・役員会	5名出席	11月11日(土)	・移動研修会(宮城野区港エリア)	7名出席	12月14日(木)	・役員会	5名出席	1月27日(土)	・黒川地域公民館分館長・公民館協力員大会	6名出席	R7.4月26日(土)	・会計監査会 ・役員会	7名出席
実施日	内 容	備 考																						
4月20日(木)	・分館長会全体会 ・分館長会総会	17名出席																						
6月15日(木)	・研修会(ニュースポーツ体験)	9名出席																						
7月7日(金)	・役員会	5名出席																						
11月11日(土)	・移動研修会(宮城野区港エリア)	7名出席																						
12月14日(木)	・役員会	5名出席																						
1月27日(土)	・黒川地域公民館分館長・公民館協力員大会	6名出席																						
R7.4月26日(土)	・会計監査会 ・役員会	7名出席																						
○分館活動の支援																								
<ul style="list-style-type: none"> ・分館活動運営費交付金 基礎額35,000円+世帯割額×世帯数 ・各分館活動への助言 																								

成果と課題、今後の取組

- ・総会、役員会、全体会は対面で開催し、様々な意見交換や情報交換を行うことができた。研修会への参加率の低さが未だ顕著なため、地域活動により役立つ内容について検討していきたい。
また、会計監査会を4月に入ってから行ってしまった為、年度中に実施するようにする。
- ・各分館長としての役割は様々であるが、町民との連絡調整を図り、地域に根差した公民館（分館）運営活動を行うとともに地域コミュニティづくりの一助となるよう、情報の提供と活動の支援に努めていく。

重点施策4. 地域文化・芸術の振興

施策1 文化・芸術を身近に触れる機会の提供

社会教育課

令和6年度実施状況

- ・「青少年小劇場」（県補助事業）大郷中学校全校生徒対象
10月7日 落語「饅頭怖い」「牛ほめ」
大郷中学校全校生徒対象
- ・「音楽アウトリーチ事業」（県補助事業）大郷小学校全校生徒対象
11月5日、6日「ピアノの演奏鑑賞」

成果と課題、今後の取組

- ・大郷小・中学校の全校生徒を対象としてそれぞれの事業を行った。アーティストの演奏を通して生の芸術技能に触れる貴重な機会となった。
- ・例年、生徒・児童に対しては両事業を通じて様々なジャンルの芸術・文化に触れる機会を提供できているが、一般町民向けの事業は企画できていないため検討していきたい。

施策2 文化団体の育成と連携強化

社会教育課

令和6年度実施状況

・コロナ禍から受け入れを中止していた老人ホームから出演依頼が来るようになった。おおさとまつりや黒川郡内の文化祭も開催され文化協会の出演・発表の機会がコロナ禍前の水準に回復した。

成果と課題、今後の取組

- ・会員の高齢化の影響から、所属団体や会員数は減少している。（現在18団体）
- ・活動の先細りによる会員自身のモチベーションに影響が出ないよう、引き続き所属団体への継続した支援を実施する。
- ・黒川地区の文化協会を中心に情報交換や相互依頼をしながら、活動発表の機会を設けるなど、やりがいが見いだせる育成支援に取り組む。

重点施策5. 文化財の理解と保存・継承

施策1 文化財の保存・管理体制の充実

社会教育課

令和6年度実施状況

- ・11月27日、町文化財保護審議会委員と協働し、町指定文化財・遺跡のパトロールを実施した。場所は、諏訪古墳、山中古墳、勢見ヶ森古墳、川内小屋館跡、小館丸館跡の5箇所、保全状況等について調査した。

- ・町指定文化財7箇所（諏訪古墳、山中古墳、大小寺遺跡、大松沢貝塚、箭楯神社、鹿島神社、支倉常長子孫の墓）について、管理・保全業務を地域団体等に委託し、文化財の環境保全に努めた。

成果と課題、今後の取組

- ・文化財にかかわる工事について、分布調査や現地確認、立会調査を実施し、文化財の破壊や不適切な工事を防ぐ指導を行い、環境保全に努めた。
- ・文化財の腐食、劣化を防ぐため保存を計画的に行う。
- ・文化財保護に関する専門職員の配置がないことから、県文化財課の協力が必要不可欠である。文化財保護の観点からも、組織体制の充実強化および民間を含めた組織との連携強化が重要である。

施策2 郷土芸能の伝承と活動支援

社会教育課

令和6年度実施状況

- ・町無形文化財である羽生田植踊保存会、宮林神楽保存会に対して、必要に応じ、活動や後継者育成に関する支援、助言を行った。
- ・羽生田植踊保存会は、児童館で定期的に練習を行い、後継者育成に取り組んだ。
- ・宮林神楽保存会は、担い手の中学生が卒業となり、教え手も不在となったことから活動を休止した。

成果と課題、今後の取組

- ・無形文化財については、担い手および教え手の確保も難しい状況が続いている。
- ・羽生田植踊保存会は、教え手の高齢化の問題が顕著化しているため、記録・保存に注力し、後世へ残すことが急務である。
- ・県文化財課や民間企業などの連携を図り、記録・保存から支援をしていく。

重点施策6. 生涯健康・生涯スポーツの推進

施策1 生涯スポーツ推進体制の整備

社会教育課

令和6年度実施状況

- ・町体育協会及びスポーツ少年団本部への活動支援として、施設使用料の減免と補助金の交付を行った。（体育協会 729 千円，スポーツ少年団本部 257 千円）
- ・体育協会・スポーツ少年団各部の活動に対して、優先的な施設の貸し出しと施設使用料の減免を行った。

成果と課題、今後の取組

- ・町体育協会・スポーツ少年団については、町の育成団体として施設の優先的使用、使用料の減免、補助金交付による活動支援を継続して行っている。
- ・今後も各スポーツ団体への支援を継続し、町民の方々や子ども達が健康づくりのためのスポーツを楽しめる環境づくりに努める。

施策2 各種スポーツ大会・教室の実施

社会教育課

令和6年度実施状況

- ・各種スポーツ大会

開催日	事業名	参加
4月29日	第34回B&G財団会長杯大郷町招待柔道大会	34チーム

2月20～21日	第40回B&G財団会長杯大郷町春季ゲートボール大会	町内各地選抜6チーム
3月9日	第40回B&G財団会長杯大郷町招待剣道大会	65チーム
・各種スポーツ教室		
開催日	事業名	参加
8月19日	水辺の安全教室・SUP体験	11名
11月1、8、22日	ハンドボール教室	大郷小4～6年生
1月11～12日	宮公武協10,000人寒稽古	137名
成果と課題、今後の取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き水辺の安全教室を実施し、背浮きやライフジャケット浮遊体験といった活動をとおして、川や海といった水辺において自身の身を守るための知識や安全意識の向上を図った。また、併せてSUP体験を行い、マリンスポーツの楽しさを伝えることができた。今後も児童たちへ、水辺での安全知識を身につけさせるだけでなく、川や海といった水辺でのスポーツの楽しさを伝えながら、スポーツに親しむ機会を提供していきたい。 ・B&G財団会長杯については、柔道が34回、ゲートボールと剣道が40回と歴史のある大会で、町内外から多くの参加者が集まっている。今後も、それぞれの競技で地域交流や技術向上の機会としていきたい。 		

施策3 スポーツ施設の改修・整備

社会教育課		
令和6年度実施状況		
施設名	整備内容	事業費
屋根改修工事	屋根改修工事	26,950千円
成果と課題、今後の取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・B&G海洋センターは昭和60年に竣工し、町のスポーツ拠点として、スポーツ少年団や体育協会といった団体に利用されているが、経年劣化により雨漏りが発生していたため、カバー工法による全面改修を行った。 ・今後もB&G海洋センターやフラップ大郷21といったスポーツ施設については、長寿命化を図りながら、計画的な改修や修繕を行い、利用者にとって安心安全な施設を維持していきたい。 		

VI 点検・評価に対する学識経験者の意見

1. 意見聴取と取りまとめについて

令和6年度事業の点検・評価に対し、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項に基づき、高橋浩評価委員に大郷町教育基本方針に定めた5つの基本方針ごとに意見を頂いた。

【高橋 浩 評価委員による意見】

基本方針1 学ぶ力と自立する力の育成

基礎・基本を重視した確かな学力の定着

外国籍の児童が安心して学習に取り組むため、児童の実態に応じた取り出し指導や入り込み指導を行い、意欲的に学習に取り組む姿が見られたことや、日本語指導教員が家庭への連絡を行い児童が学校生活をスムーズに送れているとの報告がありました。

生活経験や日本語の理解は、個人差が見られ、適切な実態把握と保護者への対応が必要であると記載されています。個々の国籍や生活環境の違いにより、児童や保護者へ対応することが今後増えることが予想され、日本語指導教員の負担も増すものと思われまます。学校生活の充実は、児童生徒の日本語の理解が深まり、保護者の理解も深まることにも繋がるので、更なる支援について尽力して欲しいと願います。

通学路において、外国籍の児童を見かけることが多くなりました。安心して学べる環境づくりが、将来的には町内への定住促進につながると考え、更には、外国籍の方々の経済活動が町の新しい産業につながることも期待します。

基本方針2 国際性を備えた豊かな心と健やかな体の育成

国際理解教育、外国語教育の充実

外国語専科教員とALTが連携して授業を行うことで、ネイティブな発音によるテンポのよい活動により、コミュニケーション能力の基礎を養うように努めたことや、英語科の授業に加え、社会、音楽、美術、道徳科の授業で、様々な国の生活、文化、歴史について学習する機会を設けたと報告がありました。

国際的な授業を取り入れたことで、これからの町を担う子ども達の世界観を養うことができると思われます。また、児童生徒は、日本の文化や社会の良さを知る機会が増えたことで、理解が深まり、親同士の交流も増え地域の発展につながることに期待します。

私個人の意見として、大人の外国人とは特別な事情が無い限り、日常で交流することは難しいと思っています。学校の授業により児童生徒が、国際理解を深めるためには重要と思われまます。きっかけづくりになるよう尽力してほしいと願います。

健康でたくましい子どもの育成

児童が育てた野菜や手作りしたみそを学校給食で食べるという食育の取り組みは、命のサイクル「植える」「育てる」「収穫する」「食べる」を学習することができ、生きる上で一生継続しなければならいことを知るきっかけになったと思います。

また、生産から加工、調理の学習をして学校給食の残食を減らす呼びかけをしたことは、食への関心を高める取り組みとなったとの報告があり、具体的にどれくらいの数値が減少したものが気になりますが、すばらしい取り組みになったと思われまます。

学校給食用食材として調理された町内農産物は、残さずに食べてもらうことが理想ですが、食育を継続的に多面的に体験することで、大郷町の農業への理解も深まること

に期待します。

基本方針3 安全安心で信頼され魅力ある教育環境の整備

時代のニーズに即応した教育環境の整備

スクールバスの運行は、送迎する家族の負担軽減につながる教育環境整備と思われます。令和4年度からは、経費節減のため、大松沢地区を小・中学生乗合せとした柔軟な発想や、教育行政を横断した計画が実施されたもので、少子化に伴う現状に照らし合わせた、経費節減に工夫された点は大きいと思います。今後とも利便性の向上と町の予算と十分検討し、継続的な運営を願います。

基本方針4 学校・家庭・地域が連携することによる協働教育の推進

地域全体で子どもを育てる環境づくり

社会科や総合的な学習は、ゲストティーチャーや外部講師から、農作物の栽培や家畜の飼育についての授業を実施し、直接話しを聞くことができたことが、田植えや稲刈りに活かされていることは、バーチャル体験ができる世の中となった中で、貴重な経験となっていて、今後も継続を願います。

基本方針5 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

ライフステージを踏まえた公民館事業の展開

地域コミュニティ組織活動への協力として、大松沢コミュニティ推進協議会、ふれあいセンター推進協議会、粕川地区コミュニティ推進協議会への支援は、どの団体においても高齢化が進み、利用頻度が減少している現状があり、地域の実情にあった支援や指導をお願いします。

特に、私も関わりのある粕川地区コミュニティ推進協議会は、豪雨災害により被災した住民の転居による人口減少と高齢化が進み、地域の衰退に歯止めがかからない現状があります。ハード面の整備は計画的に進みますが、ソフト面の計画・実行は、大変難しいものがあると思いますが、施設を活用したイベントを開催することで、人の交流などの賑わいが見込まれます。

例えば、地域住民が気軽に見に行けるイベントや遠くへ買い物になかなか行けない高齢者向けの展示会など、賑わいを作り出すことが可能と思われます。老若男女が集える施設に見合った特色のある企画事業を願います。